

(別添10)

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和4(2022)年度

施設名	とちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいくりセンター
施設所管課	保健福祉部保健福祉課、高齢対策課、健康増進課
指定管理者	社会福祉法人とちぎ健康福祉協会(法人番号2060005000772)
指定期間	平成31(2019)年4月1日～令和6(2024)年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	宇都宮市駒生町3337-1	栃木市神田町9-40	矢板市矢板54
施設の概要	とちぎ健康づくりセンター・とちぎ生きがいくりセンター	とちぎ生きがいくりセンター県南支所	とちぎ生きがいくりセンター県北支所
	①敷地面積：196,190㎡ ②建物面積 本館：22,976㎡ 車庫棟：1,767㎡ 陶芸教室棟：459㎡ ③施設 (とちぎ健康づくりセンター) 温水プール、多目的運動フロア、会議室、トレーニング室、エアロビクススタジオ、ランニングデッキ、栄養指導室 (とちぎ生きがいくりセンター) 講堂、教室、演習室、和室、多目的ホール、テニスコート、陶芸棟	①敷地面積：4,700㎡ ②建物面積 本館：1,315㎡ 講堂兼体育館：583㎡ ③施設 図書・情報コーナー、講堂兼体育館、教室、演習室、和室、屋外運動場	①敷地面積：5,300㎡ ②建物面積 本館：1,552㎡ 多目的ホール：298㎡ ③施設 情報提供コーナー、多目的ホール、教室、演習室、和室
業務内容	①とちぎ健康づくりセンター ・センターの施設の維持管理に関すること ・センターの利用に係る事務(有料施設等の許可に関するものを含む。)に関すること ・センターの運営に関すること ②とちぎ生きがいくりセンター(支所を含む) ・センターの施設の維持管理に関すること ・センターの施設使用料の徴収等に関すること ・センターの運営に関すること ③とちぎ健康の森全体管理 ・とちぎ健康の森の敷地の全体管理に関すること		

2 収支の状況

令和4(2022)年度

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	489,900	指 定 管 理 ※2	事業費	39,597
	利用料金収入	64,572		管理運営費	351,947
	その他収入※1	61,066		人件費	156,613
	合計	615,538		その他支出※1	15,022
指定管理業務収支差額①		52,359	合計		563,179
自主事業		6,536	自主事業		5,550
自主事業収支差額②		986			
収支差額(①+②)		53,345			

備考（※1 その他収入の主なものを記載） 水道光熱費等弁償金 26,025千円	備考（※1 その他支出の主なものを記載） 租税公課支出 15,022千円
--	---

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和3（2021）年度（前年度）

（千円）

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	489,900	指 定 管 理 ※2	事業費	40,464
	利用料金収入	58,526		管理運営費	299,588
	その他収入※1	18,113		人件費	145,966
				その他支出※1	17,871
	合計	566,539		合計	503,889
指定管理業務収支差額①		62,650			
自主事業		6,031	自主事業	4,602	
自主事業収支差額②		1,429			
収支差額（①+②）		64,079			
備考（※1 その他収入の主なものを記載） 水道光熱費等弁償金 18,113千円			備考（※1 その他支出の主なものを記載） 租税公課支出 17,871千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

施設名	項目	令和3（2021）年度 （前年度）	令和4（2022）年度
とちぎ健康づくりセンター	施設利用講習	815人	1,643人
	体力測定	125人	159人
	健康づくり講座	1,336人	969人
	集団指導	4,015人	9,317人
	健康づくり相談	1,456人	2,609人
	プール・トレーニングルーム・ランニングデッキ	25,190人	47,770人
	運動フロア	237時間	0時間
	エアロビクススタジオ	319時間	1,073時間
	大会議室	1,032時間	1,362時間
	小会議室	752時間	413時間
とちぎ生きがづくりセンター	多目的フロア	1,256時間	1,163時間
	テニスコート	1,643時間	3,196時間
	講堂	333時間	318時間
	教室	839時間	1,338時間
	演習室	356時間	458時間
	和室	30時間	70時間
とちぎ生きがづくりセンター県南支所	多目的ホール	253時間	336時間
	講堂兼体育館	2時間	0時間
	教室	628時間	710時間
	演習室	0時間	0時間
	和室	207時間	282時間
とちぎ生きがづくりセンター県北支所	屋外運動場	0時間	0時間
	多目的ホール	81時間	70時間
	教室	561時間	830時間
	演習室	12時間	89時間
	和室	0時間	38時間

※特定天井落下防止対策工事及び県有施設省エネ加速化事業により、次のとおり一般利用を休止した。

講堂：令和3（2021）年11月1日～令和4（2022）年7月31日

※とちぎワクチン接種センター設置により、次のとおり一般利用を休止した。

期間：令和4(2022)年1月4日～令和5(2023)年3月31日

施設：運動フロア、小会議室(平日17時まで)及び教室E

4 サービス向上に向けた取組

(全般)
・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による施設利用環境の整備
・施設利用料及び授業料のスマホ収納サービス導入による利便性の向上
(とちぎ健康づくりセンター)
・施設物品、貸出物品の充実
・魅力ある集団指導、講座の開催
・施設利用カードの更新対応日時の拡大
・施設利用開始時間の繰上げ
・ホームページ及びLINE公式アカウントにおける情報発信
(とちぎ生きがいつくりセンター)
・地域課題や社会状況に応じた学習内容や、実体験を伴う学習機会の提供

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法
(とちぎ健康づくりセンター)
・とちぎ健康づくりセンター利用者を対象としたアンケートの実施による把握
① 調査年月
(1) 貸出施設等
ア 令和4(2022)年10月1日～同年10月30日
イ 令和5(2023)年3月10日～同年3月23日
(2) プール・トレーニング室等運動施設
ア 令和4(2022)年10月1日～同年10月7日
イ 令和5(2023)年3月21日～同年3月26日
② 調査対象者
会議室利用責任者とプール等の運動施設利用者ごとに、設問の内容を一部変えて実施した。
③ 調査方法
アンケート用紙配布による調査(回答者数 971名 回収率 59.3%)
利用者意見箱「お客様の声」の設置
電話、口頭、メール等による意見等の受付
④ 調査結果
施設の貸出及び利用サービスについて、「とても満足」及び「満足」と答えた人は、アの期間では85.4%、イの期間では80%を占めている。また、プール・トレーニング室等運動施設については、アの期間では79%、イの期間では84.1%と、昨年度同様、満足度は高水準を維持している。
当施設を選んだ理由としては、貸出施設では「料金」、「交通の便」、「利用時間」、「設備・備品」、プール・トレーニング室等運動施設では「利用環境」、「駐車場」に関心が持たれている。
(とちぎ生きがいつくりセンター)
・シルバー大学校学生を対象とした授業内容に関するアンケートの実施による把握
① 調査年月
令和4(2022)年4月～同年9月、令和4(2022)年10月～令和5(2023)年3月
② 調査対象者
第42期生(1年次)406名、第41期生(2年次)359名
第43期生(1年次)351名、第42期生(2年次)390名
③ 調査方法
アンケート用紙配布による調査(回答者数 延べ1,270名、回答率 84.3%)
④ 調査結果
授業内容について、「良い」または「普通」と答えた人の割合は、全体の90%以上であり、昨年度同様、カリキュラムに概ね満足していることがうかがえる。
・シルバー大学校入学生を対象とした入学動機等に関するアンケートの実施による把握
① 調査年月
令和5(2023)年2月
② 調査対象者
第43期生(1年次)394名
③ 調査方法
アンケート用紙配布による調査(回答者数 385名、回答率 97.7%)

④ 調査結果 シルバー大学校に入学したことに「満足」、「やや満足」と答えた人の割合は、全体の80%だった。シルバー大学校を知ったきっかけとして、友人・知人の紹介が51%を占めており、また入学者自身も、友人や知人に勧めたいと答えた人の割合は全体の96%だったことから、学生によるPRがシルバー大学校の認知度向上に大きく寄与していることが分かった。	
主な利用者意見（苦情・要望）	対 応
<p>(会議室等貸出施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備のため鍵をもう5分早く出してもらいたい。 高齢者の生きがいづくりの強化策として、利用料金の低額化を検討してほしい。 <p>(プール・トレーニング室等運動施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用時間を2時間から3時間に延長してほしい。 サウナの利用を再開してほしい。 アイスの自販機を設置してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前に貸出予定がない場合は15分前から鍵の貸出を行っている。 参考意見とした。 参考意見とした。 室温を保ちながら十分な換気をすることが困難であり、利用中止としている。 参考意見とした。
主な利用者意見（積極的評価）	
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の説明等、親身になって対応してくれるのが良い。 忙しくて行けない時があるため、都度払いでできるのは良い。 トレーニングマシンの使い方の説明書きが分かりやすくして良い。 新型コロナウイルス感染症対策が万全で安心して利用できる。 	

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組	
<p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら施設運営に努めた。新たにプール及びトレーニング室におけるリアルタイムの混雑状況をホームページ及びLINE公式アカウントに掲載する等、サービスの向上を図った。 プール及びトレーニング室の利用開始時間の30分繰上げを継続して行ったほか、利用促進キャンペーンを実施し、利用者の確保に取り組んだ。 LINE公式アカウントから随時情報提供を行った。 <p>(とちぎ生きがいづくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年ぶりに開催したシルバー大学校の学校祭では、感染症対策等、実施に当たり必要な支援を行った。 引き続き、シルバー大学校への入学が高齢者の健康状態・社会参加意欲等に与える影響を検証するため、第43期生を対象に生きがい及び健康に関するアンケート調査及び健康度測定を行った。 新たに入学者を対象としたアンケートを実施し、入学生の動向の把握を行った。 	
指定管理者の提案事項に対する自己評価 ※指定管理者が独自に設定	
<p>目標1 利用者の安全・安心を確保</p> <p>①施設・設備等の適切な維持管理</p> <p>②省資源・省エネルギーの取組強化</p> <p>③災害・事故等の危機管理対策の徹底</p> <p>④利用者の個人情報保護の適正管理</p>	<p>①定期設備点検を実施し、適時、修繕等を行った。警備員による巡回や職員による定時巡回の実施により、安全の確保と環境の保全を図った。</p> <p>②入居団体と連携し、エネルギー使用量の削減を図った。</p> <p>③防災訓練の実施により、防災意識の向上を図るとともに、消防用設備等の定期的な点検を実施した。</p> <p>④関係法令等を遵守するほか、指定管理者が定める「個人情報保護に関する要綱」及び「特定個人情報の取扱に関する要綱」等に基づき、管理体制を整え適正に取り扱った。</p>
<p>目標2 利用者ニーズや利便性を考慮した施設運営</p> <p>①施設利用開始時間の繰上や新たな使</p>	<p>①貸館及びプール等においては、利用者ニーズを鑑み施設利</p>

<p>用料等の納入方法の検討等</p> <p>②利用者の状況に応じた指導や配慮</p>	<p>用開始時間を条例規定の時間より30分繰り上げた。 施設利用料及びシルバー大学校授業料等についてはコンビニ及びスマホ収納サービスに、貸館や集団指導等についてはインターネット予約に引き続き対応した。</p> <p>②ハイリスク者に対して保健師面談を実施し、安心安全な利用に繋げた。 新型コロナウイルス感染症予防のため、非接触型サーモグラフィやアルコールの設置、利用者への感染者対策の徹底など、安心して施設を利用できるよう配慮した。</p>
<p>目標3 新たな利用者の掘り起こし</p> <p>①効果的な広報活動やイベント等の実施</p> <p>②とちぎ健康づくりセンターの利用者の増加対策</p> <p>③とちぎ生きがいがづくりセンターの利用者の増加対策</p>	<p>①「とちぎ健康の森フェス2022」の開催や、LINE公式アカウントからの集団指導や講座の情報発信、「森だより」のホームページ掲載及びLINE登録者への配信を行った。 シルバー大学校では、学生や同窓会による地域活動の際の広報パネルや大学校名入りのベストの貸出を行い、地域でのシルバー大学校の活動への理解と周知を図った。</p> <p>②働く世代への健康づくりを支援するため、企業・団体向け利用チケット制度のさらなる利用拡大を図るため、企業向けサービスのパンフレットを作成し、一般企業等へ営業活動を行った。</p> <p>③入学者数確保のため、各広報媒体による周知を行うとともに、在校生及び卒業生に広報への協力を呼びかけた。 県民の日協賛行事の一環で、各校で公開授業を実施した。</p>
<p>目標4 健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた取組</p> <p>①集団指導及び運動指導の実践</p> <p>②健康づくり講座の実施</p> <p>③利用者ニーズに応じた体力測定、運動実践メニューの作成</p> <p>④健康づくりに関する相談の実施や情報発信、普及啓発</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、集団指導の定員を会場に応じて変更した上で事前予約制とした。日時や運動強度別のレッスンを引き続き設定し、利用者が選択・参加しやすいよう配慮した。 イベント「とちぎ健康の森フェス2022」内で特別レッスンを2回開催した。</p> <p>②保健師・栄養管理士・健康運動指導士の専門職員の連携により、効果的な健康づくりにつなげた。</p> <p>③体力測定の結果をもとに運動実践メニューの作成及び定期的な見直しを行い、継続的に健康づくりの支援を行った。</p> <p>④月別テーマを設定し、来館者に対し健康づくりの情報発信を行った。</p>
<p>目標5 地域や団体等に出向いた講座や研修会等の実施</p> <p>①企業・団体等と連携した出張講座等の開催</p> <p>②市町職員等の健康づくり活動を支援する研修会の開催</p> <p>③県南・県北支所を活用した講座等の実施</p>	<p>①全国健康保険協会栃木支部加入企業において「運動セミナー」、警察共済栃木県支部において職員を対象とした健康講座、県内シルバー人材センター会員を対象としたフレイル予防講座を実施した。新たに、地域に出向いてフレイル予防講座、ウォーキング講座、体力測定等の講座を実施した。</p> <p>②栃木県健康づくり研修を実施した。</p> <p>③シルバー大学校と連携した「ロコモティブシンドローム予防講座」を実施した。</p>
<p>目標6 ノウハウを活かし新たな独自講座等の実施</p> <p>①各種データの分析結果の公表及び市町・関係機関への情報提供</p>	<p>①運動実践メニューを作成した利用者を対象に評価・分析・検証を行い、結果を事業報告書として取りまとめ、ホームページに掲載した。</p>

<p>②調査研究の成果を活かした独自講座の実施</p>	<p>②メタボリックシンドローム解消等を目的とした長期講座において、毎年データの分析を行い、その成果を活かした講座等の企画を行った。</p>
<p>目標7 地域課題等を反映した学習カリキュラム</p> <p>①地域課題等と向き合い、実体験できる学習内容の提供</p> <p>②学生ニーズを反映した学習カリキュラムの見直し</p> <p>③県及び市町・関係団体等との情報交換や意見聴取</p>	<p>①福祉ボランティア活動実習や食生活改善等地域の健康づくりのための学習等、地域課題や社会状況に応じた学習内容や実体験を新たに授業に組入れた。</p> <p>②学生の満足度や意見等を踏まえ、カリキュラムの見直しを行った。</p> <p>③栃木県シルバー大学校運営委員会等において、新規事業内容等について意見聴取を行った。 長野県シニア大学を視察し、情報交換及び意見聴取を行った。</p>
<p>目標8 卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組み</p> <p>①在校生に対する地域活動に向けた支援</p> <p>②卒業生に対する地域活動の支援</p> <p>③シルバー大学校の認知度向上に向けた広報活動</p>	<p>①在校生の同窓会活動への理解を深めるため、同窓会支部の活動状況の説明や、合同で活動する地域学習をカリキュラムに加えた。 在校生及び卒業生に対し、とちぎ国体ボランティアへの参加を呼びかけた。</p> <p>②シルバー大学校教室について、卒業生の学習やクラブ活動等の会場として提供した。 全国明るい長寿社会づくり推進機構推薦の地域活動の一例である「ふまねっと運動」については、組織化に向け継続的な活動を支援した。</p> <p>③シルバー大学校のボランティア活動等が広く県民に認知されるよう、活動用ユニフォームやのぼり旗を卒業生に無料で貸し出しを行った。</p>
<p>目標9 当協会の福祉施設や他の事業等と連携した取組</p> <p>①在校生や卒業生による健康づくり事業との連携・協力</p> <p>②生きがい推進員の活動支援やねんりんピック事業への参加促進</p> <p>③とちぎ健康福祉協会の福祉施設や関係団体等との連携</p>	<p>①シルバー大学校への入学が高齢者の健康状態及び社会参加意欲等に与える影響を検証するため、第43期生を対象にアンケート調査及び健康度測定を行った。</p> <p>②校内のポスター掲示、チラシの配布、在校生及び卒業生に対する一斉配信メールの送付や朝礼での呼びかけにより、参加を促した。</p> <p>③地域活動の選択肢を広げるため、関係団体の事業・活動を紹介する授業を実施した。</p>
<p>今後改善・工夫したい事項</p>	
<p>(とちぎ健康づくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全域への健康づくり事業の展開 ・働く世代の健康づくりとして、企業向けサービスの拡充 ・施設・設備の経年劣化による修繕への対応 <p>(とちぎ生きがいづくりセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の確保 ・認知度向上に向けた取り組み ・魅力あるカリキュラムの編成 ・卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組みづくり 	

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の平等利用の確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	とちぎ健康づくりセンターの利用許可は原則として先着順、また、とちぎ生きがいづくりセンターのシルバー大学校の入学希望者が定員を超過した場合には抽選によるなど、公正・公平な方法で利用者を決定しており、平等利用は確保されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	条例・規則等に基づき手続が実施されており、適正な管理が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	(とちぎ健康づくりセンター) 高齢者や障害者の利用に際しては、スタッフによる見守りを強化するなど適切な配慮がなされている。 (とちぎ生きがいづくりセンター) 障害者用トイレ、スロープ、エレベーターを設置しており、高齢者、障害者等に配慮した環境が整っている。また、身障者の受入実績があり、平等利用は確保されている。	B
2. 施設の効用の最大限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	新型コロナウイルス感染症やとちぎワクチン接種センター設置による影響で一部業務が縮小されたものの、利用実績やアンケート結果等から、施設の設置目的に沿って業務が適正に実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	新型コロナウイルス感染症感染防止対策を十分に講じるとともに、運動施設の混雑状況について情報発信を行う等、施設の利用促進や県民サービスの向上に努めている。	A
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者アンケートを実施し、利用者の満足度を把握しており、また、その結果から利用者の満足度は高い水準を維持している。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	利用者アンケートや意見箱等に寄せられた意見・苦情に対して、指定管理者が対応できる事項については速やかに対策を講じており、適切な対応がされている。	B
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	施設、設備、備品の定期点検を行い、不備があった際は指定管理者が対応できる範囲で速やかに対応しており、適切な対応がされている。	A
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	(とちぎ健康づくりセンター) LINE公式アカウントによる情報発信や運動施設の混雑状況のホームページ等への掲載等、県民サービスの向上に向けた取組が実施されている。 (とちぎ生きがいづくりセンター) 入学生を対象とするアンケートを新た	A

		に実施し、その結果を新入生募集案内に反映させるなど、シルバー大のより効果的なPRに努めている。	
3. 管理を安定的に行う物的・人的基礎	① 組織体制は適正か。	管理運営のための適正な人員配置がなされている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	指定管理委託料の範囲内で適正に実施されている。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	照明のLED化を推進するとともに、不要な照明を消灯するなど光熱水費の縮減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	(とちぎ健康づくりセンター) 職員の業務内容に応じた研修が計画的に実施されており、人材育成は適切に実施されている。 (とちぎ生きがいづくりセンター) 明るい長寿社会づくり推進機構開催研修に参加し、資質の向上に努めている。また、新任者向けに勉強会を開催し、運営等の円滑化を図っている。 (全体管理) 施設管理に必要な研修を計画的に受講している。	B
	⑤ 危機管理体制(事故、緊急時の対応)は確保されているか。	入居団体との連絡調整や併設施設との緊密な連携のもと、防火・防災・防犯対策等を講じており、危機管理体制は確保されている。また、限られた職員で対応する夜間を想定した消防訓練を実施するなど、対応力の強化に努めている。	A
	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県及び関係機関を含めた緊急時の連絡体制一覧を作成・共有しており、連絡体制は確保されている。	B
4. 個人情報保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	「個人情報の保護に関する要綱」及び「特定個人情報の取扱いに関する要綱」を定め、取扱いに十分に配慮し、適正な維持管理に努めている。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	「情報公開に関する要綱」を定めているが、当該年度における開示請求はなかった。	B
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	利用者アンケート等の結果に基づき、指定管理者が対応できる事項については速やかに措置を講じるなど、適正な自己評価がされている。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	運動用具や会議用物品の貸出し、コピー・FAXサービス、自動販売機の設置等おおむね計画どおりに実施されている。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	「とちぎ健康の森フェス2022」を開催し、骨密度測定・健康相談や健康づくり体験レッスン等、県民の健康づくりに取り組んだ。	B

		シルバー大専校在校生及び卒業生によるボランティア活動等の実施の際、活動用ユニフォームやのぼり旗を貸出し、県民の認知度向上を図った。	
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	照明の間引き点灯や入居団体と連携した空調の使用減により、省エネルギーに取り組んでおり、環境への配慮がなされている。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を引き続き講じ、利用者が安心して施設を利用できるよう努めている。 ICTを活用したサービス向上に継続的に取り組んでいる。	A
総合的な評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的におおむね良好な管理運営状況であると認められる。必要な修繕等を適切に行うなど、施設の安定的な運用に努めている。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、事業の継続・再開に向けて工夫が見られた。引き続き、県民の健康増進や生きがいづくりに資する積極的・効果的な事業展開を期待する。 			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。